

中小企業技術センターの研究機能をご活用ください ～府内企業の研究開発の一翼を担います～

当センターの技術支援業務は大きく4つあります。まずは技術課題や困りごとのお話を伺って対策や対処を考える「技術相談」、成分分析や表面観察、精密測定などを承る「依頼試験」、そして保有機器を使用いただく「機器利用」、そして今回ご紹介する「研究業務」です。

■当センターが研究開発を行うことの意義

中小企業の研究開発の一翼を担う

ものづくり企業が自社の独自性や優位性を高めていくためには、研究開発が大きな役割を果たします。しかしそこには人件費も含めて相当の投資が必要であり、しかも必ずしも成果が短期的に現れるというものではないため、中小規模の企業が単独で研究開発に取り組むには難しいところがあります。そこでその一翼を担うために当センターでは研究業務を支援の大きな柱の一つに位置づけています。

1) 研究の入口:テーマ設定にあたって

①現場ニーズ、トレンド、未来を見据えて

では、当センターが取り組むべき研究テーマは、どのようにして決めているのか。まずは日々の技術相談を通じて生じる「現場ニーズに則した」研究テーマ、ものづくり技術の厚みを増すという面からの「トレンドを捉えた」研究テーマ、そして新産業創出や成長分野を念頭に置いた「未来を見据えた」研究テーマを基本としてバランスの取れた設定を心がけています。

②持ち込まれた相談の中から【新規】

さらに今年度から新たに、技術相談で持ち込まれた課題について「現場課題解決研究」と位置づけ、即時的かつ短期の研究テーマとして設定できるようにしています。

平成27年度に成果を発表した研究テーマ

樹脂粉末積層造形の成形品物性制御に関する調査
表面微細凹凸形状を有するDLCの創製に関する研究
誘導結合プラズマ発光分析法による油中微量元素定量法の検討
電磁波シールド材料の性能測定における測定手法間比較
無機ナノ粒子を利用した高機能部材の調査・研究
漬物に含まれるオリゴ糖やペプチドのLC/MS及び機能性の調査
3D映像の現状と動向、簡易制作技術について
低融機能性フリット絵画用無鉛絵具製造技術の改善研究
高純度マグネシウム押し出し成形におけるダイス形状の検討

2) 研究の管理:効果的&効率的に

①外部の有識者を含めた客観的な評価

研究テーマの設定から計画、実施、成果普及にあたっては、当センター管理職と企業や大学等の有識者を委員とした研究課題評価制度を導入し、当該研究の必要性や有効性、効率性等について事前、中間、事後に客観的な評価をおこなっています。

②内部コーディネーターの配置【新規】

また今年度から新たに、研究ごとに内部コーディネーターを配置して組織的かつ客観的に業務を進め、同時にスキルや内容の共有・継承を図っています。

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497 E-mail:kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp

3) 研究の出口:成果の公開と普及

『技報』と『研究成果発表会』など～

そして研究成果の普及や技術移転を図るために、個々の研究内容についての論文をまとめて掲載した『技術センター技報』を年1回発行し配布するとともに、研究者との意見交換や交流の場として研究成果発表会とポスターセッション&交流会を開催しています。

また『技報』の内容はセンターのWebサイトでも公開しており、さらにこの情報誌『クリエイティブ京都M&T』でも毎号1件以上の研究成果の報告をダイジェストで掲載しています。



27年度の研究成果発表会やポスターセッションの様子(2015.8.3)

4) オーダーメイド研究:個別の技術課題に対応

上記のほか、企業個別の技術課題の解決や新技術および新製品の開発等につなげるため、個々の企業の依頼に応じて研究を受託しています。(有料)

また、企業連携等による技術開発や新事業展開に対して、特定のセンター職員が一緒になって継続的に技術開発に取り組む「企業連携技術開発支援事業」を実施しています。



アスリート向けの補給食として共同開発した焼き菓子

■研究業務のもうひとつの意義

生きた知見がセンター全体の技術支援力を向上

既存の技術情報を活用しての支援だけではなく、当センターの職員が研究業務を通じて自らの手で試行錯誤することで、生きた知見を生み出すことができます。これは日々の技術相談をはじめ試験や分析、機器のより効果的な活用など、センター全体の技術支援力の向上にもつながっています。

成果の活用や課題の持ち込みなど、研究開発の面での困りごと、まずは当センターにご相談ください。